

## 第 27 回 観光戦略実行推進会議 議事要旨

1 . 日時：平成 30 年 12 月 3 日（月）17：00 - 17：35

2 . 場所：首相官邸 4 階大会議室

3 . 出席者：

（政府側）

菅内閣官房長官、石井国土交通大臣、片山地方創生担当大臣、浮島文部科学副大臣、原田環境大臣、西村内閣官房副長官（衆）、杉田内閣官房副長官（事務）、和泉内閣総理大臣補佐官、古谷内閣官房副長官補（内政担当）、田端観光庁長官、濱野内閣官房内閣審議官（内閣官房副長官補付）、和田内閣官房内閣審議官（内閣官房副長官補付）兼観光庁次長、正田環境省自然環境局長、宮田文化庁長官、村田文化庁次長、野村宮内庁長官官房審議官

（有識者・敬称略）

ロス・フィンドレー（株式会社 NAC 代表取締役）、辰野勇（株式会社モンベル代表取締役会長）、デービッド・アトキンソン（株式会社小西美術工芸社代表取締役社長）

4 . 議事概要

環境省より国立公園満喫プロジェクトについて（資料 1）、文化庁より文化資源を活用した観光インバウンドのための環境整備について（資料 2）、宮内庁より桂離宮の公開拡充等について（資料 3）、それぞれ資料に基づき、以下のとおり説明。

【正田環境省自然環境局長】

- ・利用拠点の滞在環境の上質化に向け、新たな民間事業導入の引き金となるような廃屋撤去や、地域文化の魅力を感じられるようなまちなみの改善、ICT 等を活用した外国人に魅力的で分かりやすい多言語解説の整備等に取り組んでいく。
- ・外国人の関心が高く、かつ、そこでしか見られないような野生生物について、保護施設の公開も含め、野生動物の観察ツアーを造成していく。ビクターセンターにおいても、こうした体験型のアクティビティを予約できるツアーデスクの設置や、最新のデジタル技術を活用した分かりやすく魅力的な展示を行っていく。
- ・インバウンド向けの新たなプロモーションとして、JNTO と連携して、モデルルートの紹介や現地ツアーの予約まで一気に行える、国立公園の一括情報サイトを構築していく。
- ・多くの外国人の方が訪れている新宿御苑を、国立公園の魅力や自然体験アクティビティ等の情報発信拠点として刷新する。これらの取組の推進により、目標である国立公園利用者数 1,000 万人の達成を図り、政府目標である宿泊者数や消費額の増加に貢献していく。

【宮田文化庁長官】

- ・我が国には全国に素晴らしい文化資源があるが、世界の人々を惹きつけて

はいない状況。これらの文化資源にプラスアルファの付加価値を付け、より魅力あるものにすべく、絶えず磨きあげることが重要。迎賓館や二条城では多言語化の充実や歴史的場面の再現等の取組により観光客が急増しているが、今後はこうした取組を全国に広げ、文化資源を最大限活用して好循環を創出し、観光立国の実現を目指す。

- ・具体的には4つの柱で進めていく。まず、日本博の開催を契機とした観光コンテンツの拡充に取り組む。例えば、美術館の展示や劇場の舞台公演を共通のテーマで全国展開するといった様々な取組について、関係者の総力を結集し、史上初の大型国家プロジェクトとして行っていく。
- ・次に、Living Historyの取組について。その文化財がどのように歴史的な場面で使われていたのか、往時のイベント、歴史の一コマを観光客にタイムトリップして感じていただく取組を充実させる。当時の装束を着て蹴鞠をしていただくような体験型コンテンツの充実や、使われなくなった古民家を旅館に再生させる取組、古くなった文化財を美装化し、往時の色彩を取り戻して観光客に楽しんでいただく取組等も充実させ、文化財に新たな付加価値を与えていく。
- ・文化財の修理にあわせて、インバウンド客が多く訪れる地域の文化財を対象に、多言語解説の整備を加速化して進めていく。
- ・日本文化の魅力発信として、VRや高精細レプリカ等の最先端技術を活用しながら、空港や駅を文化財で彩って、外国人観光客を最高のおもてなしで出迎えていく。

#### 【野村宮内庁長官官房審議官】

- ・桂離宮について、これまで当日受付の実施や、土日の実施というものに取り組んできたところであるが、本年11月1日から、1日当たりの定員を2.3倍の480人に増やし、あわせて1人1回1,000円の参観料の徴収を開始した。今のところこれで予約が減っているということはなく、順調な滑り出し。
- ・皇居の一般参観について、本年5月から英語のガイドツアーを始めたところであるが、本年11月からは中国語のガイドツアーも開始。だいたい30~50名程度の参観者とガイドが一緒に動いている状況。外国人からの質問にもきちんとお答えできるように対応していく。
- ・皇居乾通りの秋の一般公開について、本年はこの土曜日(12月1日)から開始している。今回は実施時間を90分延長し、開始時間を1時間早めて9時から、退出時間を30分繰り下げ15時半とした。参加者数は昨年度と同程度で推移。
- ・三の丸尚蔵館について、本年6月に、宮田文化庁長官が座長を務める有識者懇談会において、三の丸尚蔵館の役割機能の充実・強化に関する提言をとりまとめたところ。これに基づき、来年度から、新施設の建設に向けて工事を具体的に始めていくため、その予算の調整を始めているところ。また、準備期間中も、日本美を守り伝える「紡ぐプロジェクト」をはじめとし、積極的に貸し出しを拡充していく。また、提言の主旨も踏まえて、新施設にふさわしい活動計画、展示の計画や貸し出し計画などの検討を深めていく。
- ・皇居の東御苑について、来年11月に大嘗祭を執り行う予定。30年前の大

嘗祭も同じくこの東御苑の本丸地区で行われていたが、当時は本丸地区及び二の丸地区を長期間にわたって閉鎖した。これは建設用の自動車が行き交うことや警備上の問題といったことが理由であったと聞いているが、今回は、特に二の丸地区について、できる限り閉園期間を短くできるように取り組んでいく。

意見交換において、有識者より以下のご発言あり。

【ロス・フィンドレー氏】

- ・観光は人数を追い求めるだけではなく、観光でどうやって自分の町が良くなるか、経済的・社会的な効果、観光による人口増加など、様々なことを考えながらやっていく必要。こうした観点から、ニセコはアウトドアのライフスタイルの町になるべきと思って取組を進めているが、実際に取組を進めていくのは大変難しい。例えば、山で何かやりたいと思うと、山には5～6者の管理主体がいて、いろんなところに申請を出すと必ずどこかで引っかかる。この町は景観が大事だと思うのに、電線が地上に新設されてしまったこともある。北海道新幹線も乗客が美しい羊蹄山の景色が眺められるような配慮が必要。
- ・環境省の国立公園の中で民間ビジネスをやりたいと思ってもなかなか実現できないが、民間による整備は重要であり、そのためのルール作りが必要。外国人は単に自然が見えるというだけでは満足しない。羊蹄山であればそこでスキーができることが魅力。スキーヤーに対する安全対策も重要。
- ・皇居のガイドツアーについては自分も参加したが、200人ぐらい参加者がいたため、ガイドの話が聞こえなかった。もっと少人数で面白いストーリーが聞けるツアーであれば1万円払っても行きたいと思う。

【辰野勇氏】

- ・地域経済活性化のためには、官民が連携し、地域の自然環境を活用したアウトドア型のツーリズムを促進することが効果的。
- ・地域経済の活性化に取り組んできており、複数の県や市町村、大学、民間企業と包括連携協定を結んでいる。
- ・テーマとしては、環境保全、子供たちの生きる力の育成、高齢者の健康寿命の増進、災害時における対応力、自然環境を活用したエコツーリズムによる地域の経済活性、農林水産業の育成、バリアフリーの7つがある。
- ・その一環として、海拔ゼロの海から頂上まで、カヤックや自転車、最後には自分の足で行く「SEA TO SUMMIT」というイベントを10年間実施してきている。また、このイベントを年間365日対応できるように、ジャパンエコトラックを全国17箇所で開催中。
- ・インバウンド向けに、ジャパンエコトラックを紹介するパンフレットの英語版も配布しているが、インターネット上のサイトも今後対応させたい。
- ・山小屋等の予約システム等の整備もこれから進めていく。

【デービッド・アトキンソン氏】

- ・国立公園の多言語解説など基本的な環境整備の取組はもっとスピード感を持って進めていただきたい。本日の資料では半年前から何も変わっていない

いような印象を受ける。

- ・新宿御苑をどうするかが喫緊の課題。ロンドン、ニューヨーク、パリといった主要都市でも公園は人気の訪問先トップ 10 にいくつも入っており、新宿御苑は観光資源の一つとして大きく期待できる。すでに多くの外国人が新宿御苑を訪れているが、一方で、評価が低い口コミもある。退屈だ、メンテナンスが悪い、禁止事項が多くて使い勝手が悪いといった評価になっている。入園料の 200 円についても見直しが必要。民間事業者を入れて無料化することも一案だとは思うが、200 円しか徴収していないから設備投資ができず、悪い口コミに繋がるといった悪循環になっているので、改善策を総合的に検討すべき。ビジターセンターには民間のカフェを導入し、民間と組んで国立公園の魅力を発信して貰うべき。入園料を引き上げることで設備投資を行って、禁止事項も外していき、もっと楽しめる公園にすべき。
- ・文化財についても多言語解説等の環境整備を進め、外国人が楽しめるように、観光資源としての魅力向上を図るべき。特に文化庁の国立博物館について、先ほどのロンドン、ニューヨーク、パリといった主要都市ではやはり訪問先トップ 10 にいくつも博物館・美術館が出てくる。博物館・美術館は都市における魅力的な観光資源の一つであるが、東京のランキングを見ても国立博物館が出てこない。口コミでも、退屈だ、昔の人じゃないと楽しめない、展示が古くて何だかわからない、解説が無い、といった評価になっている。施設もカフェなどがほとんどない。こういったことにしっかり対応し、世界最高水準のリーディング博物館を目指すような大改革を是非お願いしたい。

○質疑応答の後、最後に菅内閣官房長官よりご発言。主な内容は以下のとおり。

【菅内閣官房長官】

- ・有識者の皆様には、お忙しい中ご出席をいただき、また適切なお指摘に対し誠に感謝する。真の観光立国を実現するために、これから様々な問題について対処しなければならないことを再認識した。
- ・その中で第一に、外国人が文化財、国立公園を本当の意味で楽しめるように、歴史的背景も含めて各国の方々にわかりやすい外国語の解説表記を行う。さらに、VoiceTra などの翻訳ツール、Wi-Fi など、この基本的な環境整備をスピード感を持って進めていかなければならない。
- ・また第二に、美術館・博物館、公園など公的施設の開館時間については、前例にとらわれず、外国人観光客の早朝、夜間、さらに休日の観光ニーズも丁寧に見極めて、柔軟に設定していただきたい。その際、経費の観点も踏まえて、海外の事例も参考にしながら、利用者の入場料等について積極的に検討していくことも重要である。
- ・第三に、昨年から国立公園において 4 箇所の民間カフェを導入しているが、さらに各施設の運営について民間を活用していかなければならない。加えて、外国人向けのプロモーションについては、ばらばらに行うのではなく、JNTO と緊密に連携して取り組んでいくことが大事である。こうしたご指摘をいただいた。
- ・縦割りに陥ることなく、観光庁と各省庁の連携・連絡を密にして、良い取

り組みを全国に展開し、真の観光立国が実現できるよう政府をあげて取り組んでまいりたい。

○石井国土交通大臣より閉会

- ・本日の第27回会合はここで閉会とする。なお、本日の議事については要旨を公開することを予定している。

以 上